

天井のデザインは、部屋を利用した人々の地位を示す重要なものであった。

この部屋の天井の細工は質素で、ここで待機していた茶道衆の比較的低い身分を反映している。壁には、松や桜の樹木の間、尾長、鴛鴦、鳩、雀などが描かれている。これらの障壁画は、一門（生没不明）という佐久間左京（1581-1658）の弟子が描いたものを現代に復元模写したものである。